



京から近江への古道歩き(山中越え・志賀越え)活動報告

1. 日時：2022年9月29日 10:40 京阪三条中央改札口集合

2. 参加者：16人

3. 行程：

10:51 予定より1つ早いバスに乗車。停車が少なく早く着くということで乗り込んだところ、同じようなシニア

のグループの先客があり、普段すいているはずのバスも満員となった。途中、志賀の山越えの起点となる荒神橋、以前訪ねた北白川の石仏を車窓に見ることができた。

11:25 山中バス停着。宝篋印塔から旧道に入り、旅籠町の面影を残す道を、極楽寺、西教寺とたどる。西教寺山門横の大仏を拝し少し進むとトタンにおおわれた古井戸がある。歌枕として名高い「山の井」と伝えられている。幸運なことに、たまたま外に出てこられた旧家と見えるお宅の女性のご厚意で、トタンをめくって中の井戸の様子を見せていただくことができた。

「むすぶ手のしづくに濁る山の井のあかでも君に分かれぬるかな」(古今和歌集 紀貫之)

12:00 バス道と合流した後、志賀峠への標識に従い、再び旧道に入る。河原に下りる道を辿った先に一对の石燈籠があり、北の方にある無動寺への分かれ道となっているらしい。ここで昼食(～12:45)。その後、さらに草ぼうぼうの道を進む。

13:20 比叡山ドライブウェイの下のトンネルをくぐるとそこが志賀峠であった。

ここから倒木だらけの下り坂を進む。くぐるかまたぐか、右へ行くか左へ行くか、時に引き上げてもらい、時に杖を支えに進む。幸い、心配した雨後の悪路というほどのことはなく、結果的に楽しい山歩きとなった。

14:15 崇福寺跡に登る階段下に到着。案内板に、上の散策路は危険との張り紙があり、天智天皇が大津の宮に遷った折に創建され、その後もはるか京から山越えで、あるいは湖水側から、都人を引き寄せた壮大な寺跡は下から偲ぶのみとなった。

14:25 志賀の大仏(見世のおぼとけ)着。

志賀の山越え道にあって旅人を見守る三体の石仏(京側の北白川・中程の西教寺・そして志賀)は一里塚の役割も兼ねていたという。(井戸を見せて下さった女性の話)

14:35 百穴古墳群。

15:15 滋賀里駅着。解散。秋晴れの下、距離は長くはないもののしっかり歩いた、さわやかな一日であった。

(記録 Cグループ)

